

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3471503742		
法人名	有限会社 青葉メディカ		
事業所名	グループホーム はるうらら		
所在地	広島県 福山市 青葉台1丁目10-6		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年11月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様一人一人を大切にし、毎日を楽しみ、笑顔で過ごして頂ける様、ご利用者様に寄り添った支援を心がけております  
ボランティアなど地域の方々のご協力を得て、施設を盛り上げていただいております  
これからも、ご家族は勿論、地域の方々が気軽に足を運んでいただけるよう、地域に根ざした、開放的で人が集まる施設となるよう努力していきたくと思っております

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市の東部に位置し、住宅地の中にあるが、周りには商店や大型スーパー、また、大きな公園等があり利便性が良い。同法人のデイサービスが併設されていて、利用者同士の交流が図られている。家族との信頼関係に努め、協力を得ながら利用者の立場に立った支援に心掛けると共に常に寄り添い、その人の想いに沿う様取り組まれている。ボランティアの受け入れも積極的に行い、色んな方との出会いが持てる様努められている。中でも保育所の園児との交流は利用者全員が笑顔になり元気をもらっている。管理者、職員が心ある、温かな、やさしい介護で安心、安全に過ごしてもらえる様日々心がけている。また、運営者が医療機関と言う事もあり緊急時の対応も万全である。今後は地域に開かれた事業所となる事に期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の見えるところに理念を掲示、常に確認が出来るようにしてある ミーティングを通して、理念の共通理解重要性について再度確認を行い、日々の実践に生かせるように努めている	職員で考えられた理念をリビングの誰もが見えやすい場所に掲示し常に意識できるようにされている。また、ミーティングでも理念について話し合い振り返る機会とし、日々実践に繋げる様周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加を試みてはいるが、高齢化により、なかなか参加できないでる 事業所内での交流を検討しているが、ボランティア・保育園児の来所による交流のみとなっている	家族の声かけで踊りのボランティアの方の訪問や地域の保育園児との交流、同法人のデイサービスが階下にあるその利用者との交流の機会を持っている。今回は敬老会にも参加し少しずつではあるが顔見知りの関係ができる様取り組まれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた家族などのお話を傾聴し、困っていることや負担が解決・軽減できるよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度会議を開催 町内会長は多忙のため、参加が出来ていないが、民生委員参加は定着してきている 事業所への意見・要望には沿えるよう努力し、サービス向上へつなげている	定期的に開催し、家族や民生委員、包括支援センター等の参加の下、現状報告を伝え、立場の違う方々から忌憚のない意見を得、ケアに活かしている。防災についての助言も得られた。また、感染症などの勉強会となる場合もあり、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼がなかなか出来ていないが、制度など不明な点や対応困難時には相談し、意見を伺うようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員を中心に定期的に身体拘束の必要性や身体拘束以外の方法を話し合い、実践するようにしている	事例を基に勉強会を実施し、禁止の対象となる行為について正しく理解する様全職員に周知し、拘束のないケアに取り組むと共に日々話し合い共有しながら、統一したケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員を中心に、定期的に勉強会を行い、普段の支援が虐待につながっていないかを見直すようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、制度については理解できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居時には十分説明を行い、ご家族の疑問にはその都度回答するようにしている 改定や、金額変更があったときはその都度説明を行い、理解を得るよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から訴えや要望に耳を傾けるようにしている ご家族からは、来所時や運営推進会議参加時にご意見伺い、日々の業務改善に活かすようにしている	家族の訪問時や運営推進会議等で意見や要望などを聞き取っている。その中での意見等についてはミーティングや申し送りに職員に伝え、検討し個々に対応すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行うミーティングを通して、業務などへの意見・提案を聞くようにしている	日々の業務の中やそれぞれの休憩時間、ミーティング等で聞く事が多く、提案や意見については職員間で検討し反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り現場の状況把握に努めているが、なかなか十分には出来ていない 事務長・管理者からの報告により、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、積極的に参加を促し、同じ人に偏らないよう研修参加が出来るよう心がけており、研修に参加した職員は報告を行い、日々の業務に活かすことで、個々のレベルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される小地域ネットワークへの参加を通して、同業者との交流の機会を持ち、意見交換などできるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人と顔を合わせて話を伺い、入居後数ヶ月はご本人の様子に気をつけ、声かけを通して関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族と面談を行い話をうかがうようにしている 要望には柔軟に対応できるようにし、不安や負担がないように心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が望まれている事を理解し、主治医などから得た情報と合わせサービス内容を検討している 当事業所以外が良いと思われるときは他事業所の紹介を行うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスの提供だけでなく、ご本人が出来ることは一緒に行い、コミュニケーションを図りながら楽しく、安心して過ごして頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたときには、普段のご様子を伝え、ご意見・要望、時には助言を頂きながらご本人と一緒に支えていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊の機会は減ってきており、時間があれば、来所していただき、関係が途切れないよう支援に努めている	訪問しやすい雰囲気づくりに努め家族と一緒に散歩に出かける等家族と共有する時間を大切にしてもらい様取り組んでいる。時には友人が訪問される事もあり、馴染の人の関係継続ができる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性・相性もあり、日々利用者同士のトラブルが起きないように、また孤立することなく、心穏やかに過ごして頂けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたかたがたのご家族とも必要に応じて相談を受けるなど、良い関係作りに努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人の口から意向が確認できるようコミュニケーションを図っている 発言の少ない方は、表情から読み取るようにし、職員間で情報交換することで、本人本位が実現できるよう努めている	入浴時など一対一の対応の時などに思いを聞く事があり、日々の色々な場面で会話する時間を多く持ち把握に努め、個々の思いは朝、夕の申し送り時職員に周知し可能な限る対応している。困難な場合は行動や表情から把握し扱う様している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを通して、昔の事や経験してきたことなどを伺うようにしており、ご家族からも情報収集することで、経過を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りを通して、一人一人の体調や一日の様子を確認するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望を伺い、主治医・介護職員・療法士と話し合い、介護計画に反映させている	情報提供やアセスメント、家族や本人の意向を基にカンファレンスを行い医師や職員の意見を反映させ本人本位の計画を作成し、家族の承諾を得ると共に職員にも周知している。また、定期的にモニタリングを行い、見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて、日常の生活状態・身体状況を記録し、職員が目を通せる場所へ保管することで、情報共有・見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅・リハビリ・主治医・ご家族・ボランティア、他職種と情報交換・共有に努め、柔軟な支援・サービス提供できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族・知人・友人・ボランティアの協力を得て、心豊かに過ごせるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前後にはご家族と相談し、必要に応じた医療機関が受診できるようにしている かかりつけ医以外を受診したときには、かかりつけ医に状況の報告をするようにしている	協力医の往診、又、訪問歯科支援もある。かかりつけ医や他科の受診は基本家族となっている。その都度現状は医師に伝え、また結果についても報告してもらう体制はできている。協力医の看護師との連携が取れているので夜間や緊急時も24時間体制で安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な体調不良は、まず事業所内の看護師へ相談し、受診の必要性などを検討 必要に応じて、協力医療機関の看護師に相談・連携を図り、個々の健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、状況に合わせ、病院へ伺い状態の確認や退院の相談などするように心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、急変時の対応や、終末期について家族の考えを確認しておくようにしている 医療機関と情報を共有し、事業所内でも方針を確認、ご家族の要望に沿えるように取り組んでいる	看取りの経験がある。利用開始時終末期についての説明を行っている。状況変化が起きた場合は家族の意向をその都度確認し、方針を共有し医師や関係者、職員との連携を図りチームで支援に取り組んでいる。終末期についての外部研修に参加し職員にも周知している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に慌てず対応できるよう、ミーティングなどで、手順の確認を行うようにしている また、応急処置については、協力病院へ勉強会の開催を依頼するなど取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災・地震に備えて避難訓練を行い、避難方法を身につけるよう取り組んでいる 地域住民を交えての訓練は行っていないが、災害時の協力については運営推進会議を通して、話をする機会をもった	夜間想定避難訓練を年2回実施している。通報手順や避難誘導等の訓練を行い、反省点や気付きなどを次に繋げるよう取り組んでいる。地域住民の参加までには至っていない。運営推進会議で協力の依頼はされている。	今後も引き続き運営推進会議の中で協力の依頼をされると共に訓練状況についてを議題とし意見交換を行い理解を得る働きかけをその都度行い協力体制の強化に繋げる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや接遇については、日頃から職員で話し合う機会を持ち、相手の立場に立った対応が出来るよう取り組んでいる	勉強会や外部研修で学んだ事を職員間に報告している。職員同士話し合いなど行いながら年長者に対して敬意を持った対応で接する様務めている。個人情報にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の思いや希望を引き出せるようコミュニケーションを図り、自己決定が出来るような声かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇時間には一人一人のペースに合わせ、過ごしていただくようにしている レクリエーションの時も強制的にならによる声かけに気をつけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を決めるようにしており、概ね2ヶ月に1度訪問美容師をお願いをして、身だしなみを整えられるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を準備したり、片付けは一緒に行うことが難しくなっている 時に味付けを見ていただくことある	利用者に無理のない程度に手伝ってもらっている。職員は利用者の個々のペースに応じて言葉かけを行いながら優しく見守り楽しみの時間となる様取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分についてはチェックするようにしており、体調に合わせ、食事の形態も変えられるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、義歯は毎晩洗浄剤を使用して清潔に努めている 必要に応じて、訪問歯科診療が受けられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声かけ以外に、個々のリズムに合わせた対応が出来るようにしている 日中は出来る限り、トイレでの排泄を促している	日々の排泄パターンを基に声掛けを行っている。また利用者の表情や行動をみて行きたいときに行くことができるよう個々に応じた細やかな対応でトイレ誘導を行い、習慣を活かした支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態のチェックを毎日行い、便秘にならなように、主治医と連携を図り、食事・運動・内服薬・坐薬などここに合わせ対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日については希望を受け入れられていないが、その日の体調や状況に応じて、入浴日の変更など対応している	時間帯や回数などは決められているが時間帯の希望がある方には臨機応変に対応している。拒否の方はタイミングや声かけを工夫し清潔保持に努めている。清拭や足浴で対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況により、起きる時間を遅くしたり、定期的にシーツの交換を行うなど安心して眠られる環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師の協力を得ながら、薬の管理・確認を行い、症状や状態に変化があったときには、報告・相談を行い対応しており、内服変更時には職員全員が把握するよう、申し送りを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることには取り組んでいただき、一人一人の出来る力を確認し、自身と楽しみにつながる様支援している なかなか遠出は出来ないが、近所の散歩などで気分転換できるよう心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、外出の機会を持つように支援しているが、出かけられる人も決まってきている	計画を立てて全員で花見に出かけている。リハビリを兼ねて散歩することを日課としているが外出するのが身体状況により難しくなってきた利用者には敷地内を歩くことで気分転換を図ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内で使用することはないが、買い物などで使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話の使用や手紙のやり取りが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・職員の声・外部の光・電気の明るさなど不快を感じられたときには直ぐの解消できるよう対応を心がけている 壁には季節を感じられる飾りをするなど環境作りにも気をつけている	落ち葉や草花を用いた季節の工芸品が壁に飾られ季節感が感じられる。畳スペースもあり、空調や採光も適度に保たれ、死角もなく安全である。また、食事準備の匂いや音が五感刺激となり生活感のある共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思う場所で過ごせるように心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは使い慣れたこだわりのある物を持ち込んでいただき、好きなものを飾り、落ち着いて過ごして頂けるようにしている	居室の表札は間違いのない配慮がされていて、思い出の写真や季節を感じる手作りの作品があり、馴染の椅子やテレビ等が持ち込まれ、その人らしく工夫された居室で穏やかに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所がわかるよう表示したり、日付確認をしやすいよう日めくりを使用したり、安全で安心して過ごして頂けるよう環境づくりに努めている		